



作新学院復興支援活動報告 2

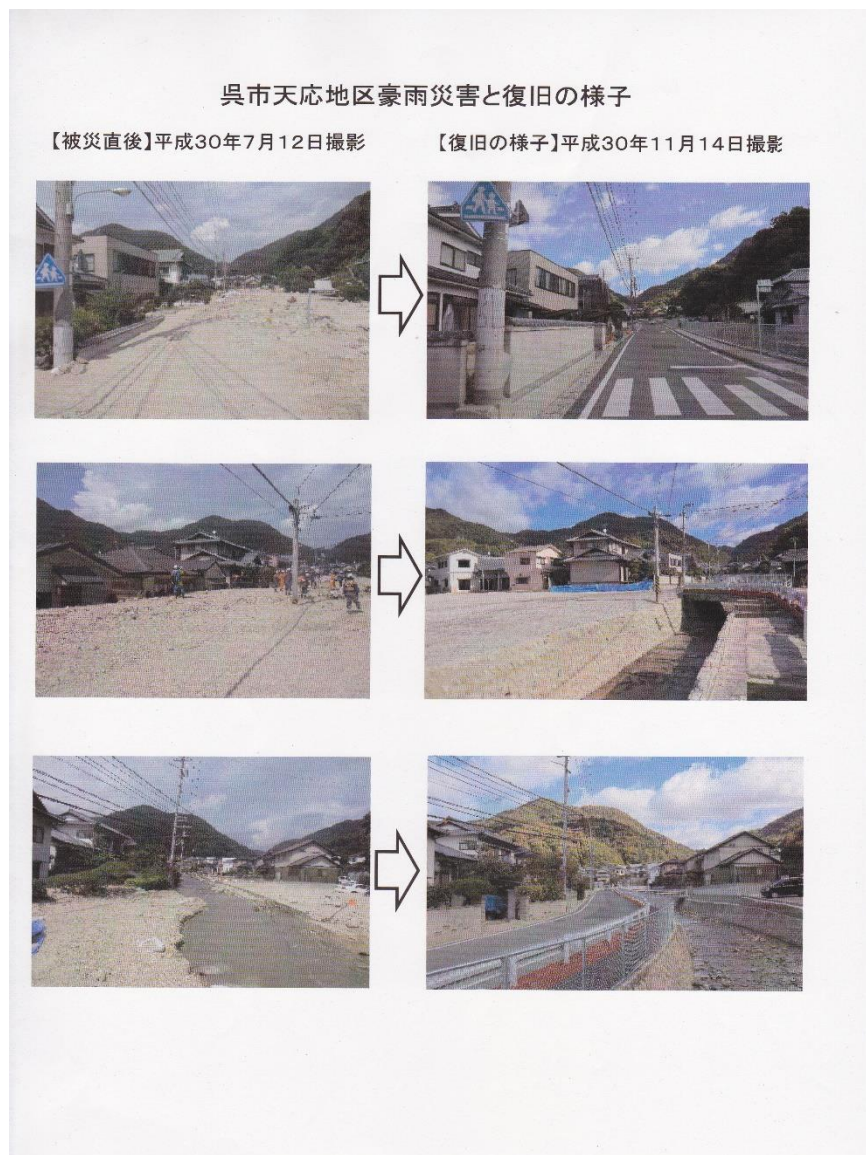
「作新学院文庫」が届ける、明日への力（天応小学校・中学校）～

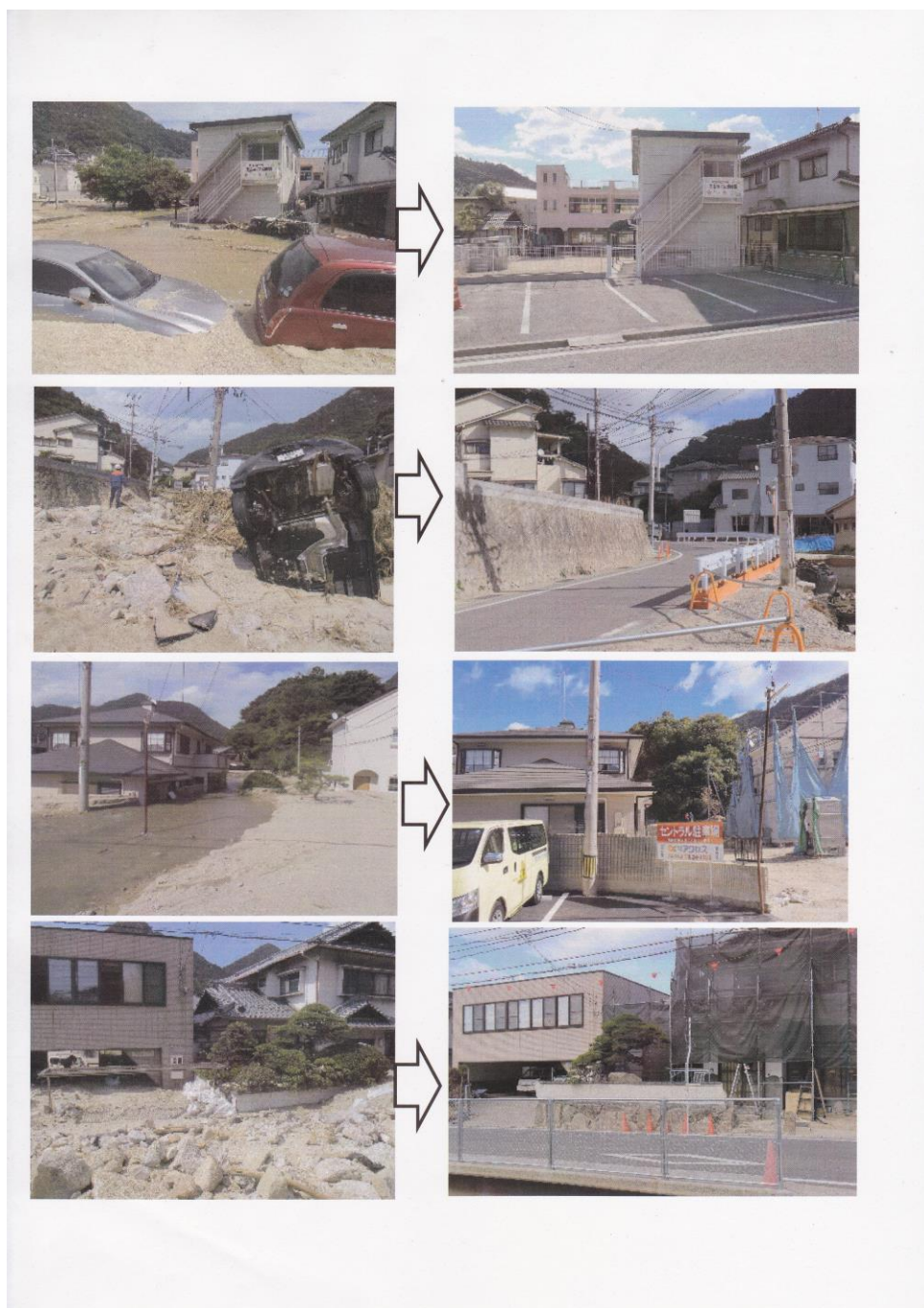
呉市天応地区は、7月6日の西日本豪雨において、甚大な被害を受けました。校区の中心を流れる大屋川付近を土石流が町を襲い、町全体が土砂で埋め尽くされました。あちらこちらで土砂崩れが生起し、家屋の損壊や床上浸水等により、多くの児童、生徒達が被災しました。

そんな中、天応小学校は奇跡的にほぼ無傷でした。しかし、通学路は危険な状態であり、小学校が避難所や、自衛隊の駐車場になったことにより、臨時休校と余儀なくされ、児童たちは登校できませんでした。

天応中学校は、グラウンドの東側の山が崩落し、グラウンドのおよそ3分の2が土砂や直径5mほどの多数の巨石で覆われました。山の中腹の崩落現場に依然巨石が多数存在し、落下する危険があり、生徒の安全が担保できないため、現在は、天応小学校の空き教室を借りて生徒達は天応小学校の児童たちと一緒に学校生活を送っています。

下記の写真は、天応中学校から、震災後の街の状況と復旧が進んだ現在の様子を送ってくださいました。





被災当初は、道路や鉄道をはじめとしたライフラインの復旧まで数年はかかるものと誰もが思っていたそうです。しかし、災害派遣の自衛隊や、全国各地から駆けつけた消防、警察、ボランティアの力により、想像以上に復旧が進み、今では町を覆い尽くしていた土砂はほとんど撤去されました。

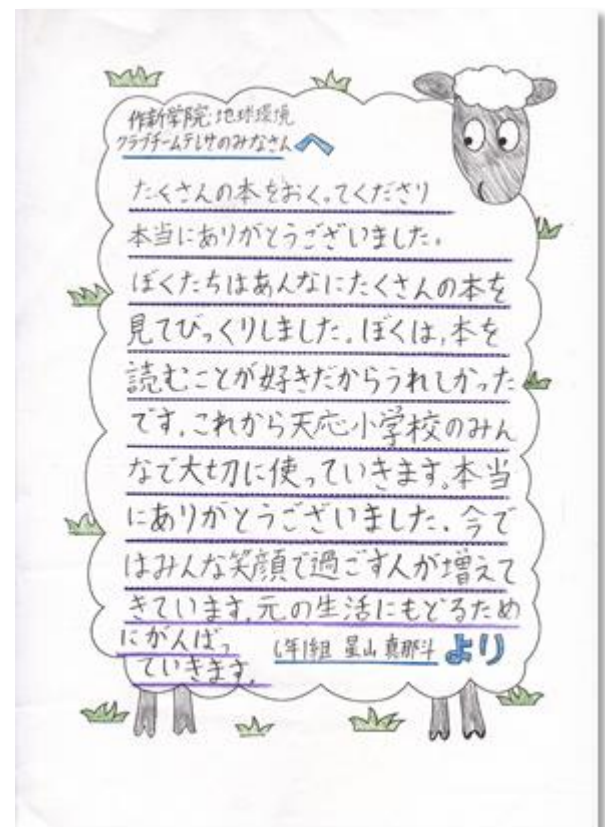
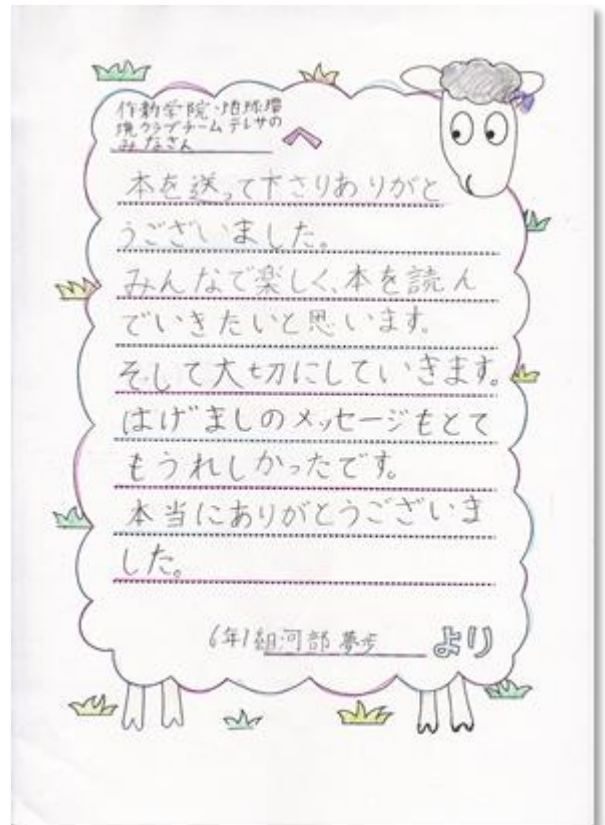
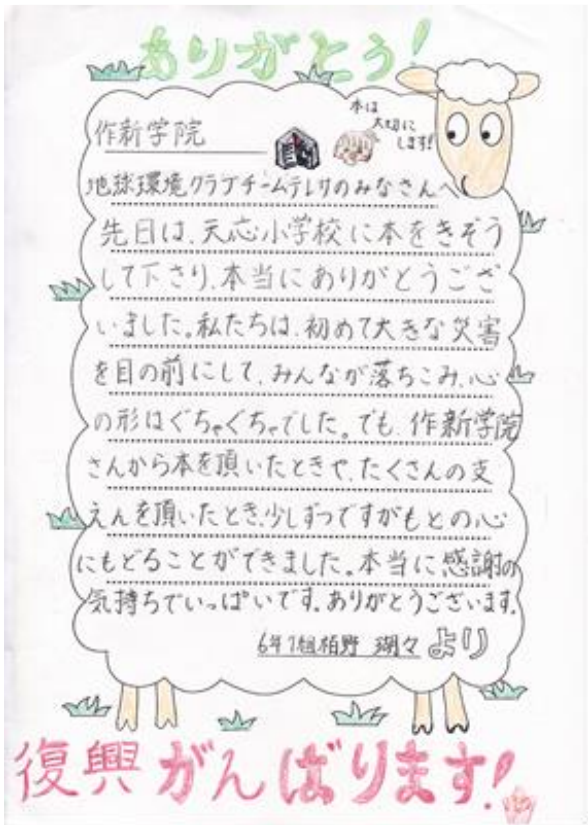
先日、寄贈した作新文庫は、兼用図書館へ設置され、利用していただいています。

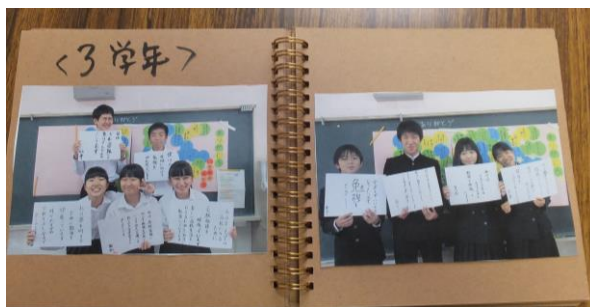
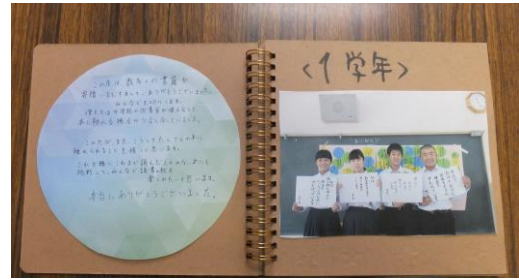
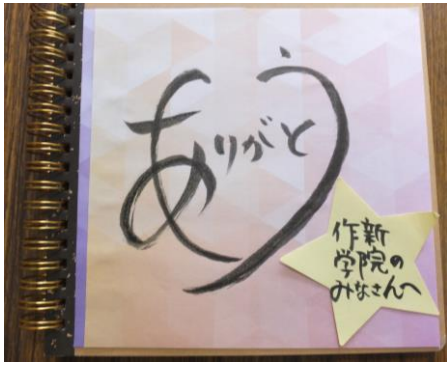


呉市天応小学校・天応中学校さんより

お礼のメッセージが届きました！

○ 天応小学校代表児童のみなさんからのメッセージ





天応中学校の各学年のみなさんから、お写真一人ひとりのメッセージが届きました。天応中学校は、山の崩落により、校庭の3分の2が土砂や巨石で埋まり、安全確保が難しく、天応小学校に間借りしている状況です。

子どもの世界で、本が果たす役割が大きいことを私たちは知っています。災害に遭った辛い状況下でも心を解き放し、想像の翼を広げ明日の希望を見つけ出すきっかけや、前に一歩踏み出す力を与えてくれることでしょう。

本を読んでいる時間だけは、何も考えず、自分だけの時間を過ごすこともできます。この支援をきっかけに、“オール作新”では、被災地に「作新学院文庫」を送る活動を進めていきたいと思います。

